



兵庫県議会議員 内藤 兵衛

県政NEWS
No.32 2019.1

一日生涯

「一日生涯」は、内藤兵衛議員の座右の銘です。今日の一日を生涯と心得て、全力を出し切るという思いを込めています。

雄県・兵庫の新たな未来拓く

兵庫県議会議員 内藤 兵衛

平成31年の新たな年を迎えました。謹んで新春のお慶びを申し上げます。



井戸知事と意見交換

す。その姿を世界に発信しようではありませんか。

西脇多可においても未来を左右する重要な節目の時を迎えています。昨年の多可町新庁舎の開庁、西脇市の新庁舎の整備も今年、本格的に動き始めます。

に、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズ関西へとつながるゴールデン・スポーツイヤーズが始まります。2025年の大阪万博も控え、日本、関西、そして兵庫に世界からの注目が集まります。

ポスト県政150年、「すこやか兵庫」をめざし新たな第一歩を踏み出した今、少子高齢化、人口減少など時代の変化に負けないとなく地域活力を維持、増進を図る兵庫モデルを創造することが明治維新以来、この国の発展を支えてきた「雄県・兵庫」の進むべき道だと思っていま

地域創生を推し進めるランドマークとして機能を最大限発揮させなければなりません。その具体的な方策をともに考え、あらゆる世代の熱意や様々な思いを未来へとつなぐことが政治家の使命であり、粉骨碎身の努力をする決意です。

今年、適正かつ効率的、効果的な執行へ、しっかりとチェックするとともに、新年度予算編成に向けても意見、提言を行ってまいります。

今年度の干支は亥。県民誰もがわくわくした気持ちを持つことができ、猪のごとく猪突猛进、まっしぐらに走り続けましょう。

今年度の干支は亥。県民誰もがわくわくした気持ちを持つことができ、猪のごとく猪突猛进、まっしぐらに走り続けましょう。

平成29年度決算委員会

平成29年度決算案を審査する特別委員会に参画しました。10月10日から約2週間にわたり集中審議を行い、原案通り認定しました。私からは地域創生に向けた人口増対策、災害に強い県土づくりなどについて質問しました。



地域創生へ人口増対策を質す

新条例・行革方針に反映

県民との参画と協働で財政運営

防災、長寿命化対策など別枠設定 安全安心を確保

今年度が最終年度となる行財政構造改革11年間の取り組みの検証と、これを踏まえた2019年度以降の新たな行財政運営方針及び新行革条例を策定するため、行財政構造改革調査特別委員会（設置期間…6月13日～10月4日）が設置され、12人の委員の一人として審議に参画しました。

震災からの創造的復興により悪化した財政を立て直すため、全国初の行革条例のもと構造改革に取り組んだ結果、11年間の累計で1兆3453億円の効果額を生み、収支均衡の達成などの成果がありました。しかし、借金である震災関連県債約3600億円、行革中に発行した財源対策債約2900億円の償還（返済）が残っており、県民から信頼される行財政運営を進めるため、新たな枠組みと新行革条例を策定することになりました。

審議の中で、自民党県議団としては11年間の取り組みを評価した上で、2019年度以降は「参画と協働の精神による県民総参加の行革」を主張しました。私からは、削減といったマイナスイメージではなく「持続可能で健全な行財政基盤を創造する『夢ある行革』の推進、そして防災・減災や施設の長寿命化対策など安全安心の確保に関わる予算は別枠で確保するよう求めました。

新たな行財政運営方針では、収支均衡を維持しながら10年間で県債（借金）残高を3割・約9千億円縮減する目標を立て、「すこやか兵庫」の実現に向けた施策を展開することになります。主張してきた安全安心の確保が柱の一つに、さらに「県民の参画と協働を基調に運営」の文言が行革条例に加えられ、10月5日に議決しました。

今後、適正かつ効率的、効果的な執行へ、しっかりとチェックするとともに、新年度予算編成に向けても意見、提言を行ってまいります。

第342回12月定例県議会一般質問に登壇

子どもたちが夢を抱き叶える社会に

12月11日、第342回定例県議会一般質問に登壇しました。今年最後の一般質問者という訳ではありませんが、この1年を振り返って、忘れることのできない出来事を取り上げながら、5項目6問の質問を行いました。知事はじめ当局からは丁寧なる答弁をいただき、2019年、**兵庫県の新たなスタートに向け、明るい希望**を感じました。地元からの多数の傍聴にとっても感謝しています。その概要を紹介します。



1 将来進むべき道を見据えた知事の資質は

内藤 忘れることのできない出来事の一つ目は**メジャーリーグで活躍した大谷翔平選手**。自らの才能を信じて投打の二刀流を貫き通す信念。今後、加速的な変化が予想される中、大谷選手のような強い信念が要求される。兵庫の将来の進むべき道を見据えた時、県政の舵取り役を担う知事の資質は。

井戸知事 県民目線、現場主

義に徹し、社会の変化を察知、目標、ビジョンを提示する力。これを実行する力。そして五国からなる兵庫の知事は参画と協働を基本に地域の声に耳を傾け、県民と共に歩む知事であらねばならない。



決意を述べる井戸知事

4 社会基盤整備 (1)防災先進県兵庫の安全・安心

内藤 **四つ目は災害**。7月豪雨、9月の台風など県内では社会基盤施設が効果を発揮した。実際に私の地元でも、杉原川や野間川での河川対策や郷ノ瀬川砂防堰堤の整備により、安心して暮らせるとの声を数多く聞いている。社会基盤施設の重要性を再認識した。そこで、防災先進県として、さらなる県土の安全・安心に向けた取り組みは。

井戸知事 今回の災害の教訓から、高潮対策10箇年計画及び道路防災推進10箇年計画を策定する。土砂災害・治水対策も前倒し実施する。安全・安心のための対策を重点的に取り組む。



大雨で効果を発揮した砂防ダム

2 ひょうごe-県民制度に市町の参画を

内藤 **二つ目は県政150周年**。150年前と違って人口減少社会にある。県外居住の県出身者らを兵庫を第2の住所として登録する、ひょうごe-県民制度が実

施される。本事業の効果を高めるためには市町の参画が重要。

井戸知事 登録者に電子マネーカード「ひょうごe-県民証」を発行する。ふるさととの継続的な交流を促進するには、市町との連携が不可欠。「e-市町民証」も兼ねられるように検討する。県民と県外に住むe-県民が力を合わせて、地域創生を進めていければと願っている。



県政150周年記念式典

4 社会基盤整備 (2)県民ニーズに応える維持管理

内藤 「河川内の土砂や樹木の撤去」「舗装を修繕」「道路や河川の草刈り」といった生活に密着した社会基盤施設の維持管理を求める県民の切実な声を、多く聞いている。これらの県民ニーズに応

え、安全・安心の確保のためには、様々な工夫はもちろん、維持管理のための予算確保が特に重要。また、適切な維持管理で機能を発揮させることが重要だ。

荒木副知事 限られた予算の中、実施時期や修繕方法の工夫により、施設の管理レベルの確保に努めている。喫緊の課題に対しては、通常事業とは別枠で事業費を確保する。

3 若者の県内中小企業への就業・定着促進

内藤 **三つ目は入国管理法改正案の成立**。深刻な人手不足を外国人材に頼る、という単純な問題ではない。郡部や中小企業では人手不足が著しく、一方、

若者の都市部の大企業志向が顕著。若者を無理に県内に止めるより、むしろ、今ある県内企業が若者を県内に止めるぐらいのオリジナルな魅力をアップさせることが不可欠だ。

金澤副知事 企業の魅力アップや、県内のオンリーワン企業の情報発信を積極的に行う。ふるさとに帰る受け入れ体制づくりが重要と考える。



ものづくり企業で働く若者

5 兵庫の未来に向けた教育の充実を

内藤 **五つ目は本庶佑京都大学特別教授のノーベル賞受賞**。これからの子どもたちに求められることは、本庶特別教授や大谷選手のように自らの信念を強く抱きながら、夢を叶えるため、それぞれの舞台で活動し未来の兵庫を力強く先導するという姿ではないか。そのような力を子どもたちが身につけるための教育施策の充実を。

中学生のトライやる・ウィーク



西上教育長 今年度策定する第3期ひょうご教育創造プランは、「『未来への道を切り拓く力』の育成」をテーマに、重点的に取り組む新たな施策を設定する。

西脇多可においても重大な出来事、忘れられない思い出が沢山ありましたが、その中から三つ写真で紹介いたします。

天船バイパス完成。県政150周年の記念すべき年に完成した天船バイパスは、この地域の過去と現在をつなぎ、そして現在と未来をつなぐ道路となる。式典でテープカットならぬ巻きすしカット



北はりま消防本部(西脇消防署)が竣工。3市1町(西脇市、加東市、加西市、多可町)の広域消防を担います



多可町新庁舎の開庁式典。多可町の大きなランドマークでもあり、かつ町民全員にとっての財産。より開かれた庁舎に

>> プロフィール <<

昭和33年9月14日、多可郡中町(現多可町中区)に生まれ育ち、国立大阪大学法学部卒業後、総合商社(株)トーメン入社。ニューヨーク本店、大阪本店、上海店などで勤務。**兵庫を衛(まも)**るため、ふるさとに帰り平成19年4月、兵庫県議会議員初当選。建設及び総務常任委員長、自民党県議団政調会長などを務めさせていただきました。家族は母、妻、一男。趣味はマラソン。好きな言葉は「一日生涯」です。

発行 兵庫県議会議員 **内藤ひょうえ** 事務所 〒677-0016 西脇市高田井町341-1 TEL.0795-23-0417 FAX.0795-23-0418